

『未来を見る力』

『人口減少に負けない思考法』

河合雅司(著)
PHP新書
(2020/9)
968円

人口減少のインパクトを具体的に捉えて、これからの方向性に示唆を与えてくれる一冊。



【感想】

本日ご紹介する一冊は、わが国の人口減少のインパクトを説いたベストセラー、『未来の年表』の著者、河合雅司氏が、「人口減少に負けない思考法」を説いた一冊。

本格的な人口減少と高齢化が進んでいく状況下で、既存のモデルを変えて、人口減少社会でどうビジネスを転換すればいいかイメージできているケースは少ないかと思います。

著者は、コロナ禍は「人口減少を前提とした社会のつくり替え」のためのラストチャンスだと提言しています。感染防止のために人と人の接触を減らすことが「当たり前」となり消費が大きく消失していますが、これは人口減少後の国内マーケットの縮小を想起させ、人口減少後の日本社会を、われわれは一足早く目撃したようなものであると述べています。

小売店、飲食店、メーカー、自治体、教育など幅広い観点で、どのような課題が生じてきて、それを解決するためのヒントが述べられており、今後の戦略を考えるうえで、参考になる一冊です。

【以下引用】

(2019年)前年比の人口減少幅は51万5864人。

- ・2040年代に入ると毎年90万人ほどの規模で減っていく。ビジネス的な視点で考えるならば、毎年一つの県や政令指定都市と同規模の国内マーケットが縮んでいくようなものである。
- ・少子高齢化に伴う人口減少で不足するのは働き手だけではないからだ。むしろ深刻に受け止めるべきは「はじめに」でも述べた通り消費者の減少だ。この本質を見落としている人が実に多い。
- ・日本も、いつまでも量の多寡や業界のシェアに固執するのではなく、質の向上によって一つ当たりの価格を上げて利益高を増やすモデルへと発想を転換することである。
- ・「70歳現役社会」実現の最大の阻害要因となりそうなのが、コンピューターの普及・発達に伴うビジネス現場の構造変化である。
- ・エンパシーは「自分も相手の立場に立って、気持ちを分かち合う」ことを意味する。なぜ人口減少社会においてエンパシーが極めて重要になるのかと言えば、これから訪れる社会はいままでの日本とは全く異なるからだ。繰り返すが人口減少がもたらすこれからの激変は、すべての分野に例外なく起こる。そして誰も経験したことのない大きな変化となる。過去の経験則や知識といったものは役に立たないのだから、各人がおのおのの立場を超えて理解し合い、新たな知恵を出さざるを得ない。

コロナ禍による市場の変化を「人口減少後の国内マーケット」として捉えて変革のチャンスにする思考は、希望を与えてくれる内容です。